

図書館だより 第25号



<図書館本館周辺>

<お知らせ>

本館は



4月1日から**月曜日・祝日**も開館しています！
ご利用下さい。 *地域館・分館は従来通りです。

目 次

平成19年度 富山市立図書館主要事業.....	2
細入図書館は、本館とコンピュータシステムが統合されました	3
障害者サービス資料のデジタル化について.....	4
子どもの本の展示会・山田孝雄文庫資料の展示	5
いちおしライブラリー 第13回「音楽その魅力」.....	6
レファレンスあれこれ.....	8

平成19年度 富山市立図書館主要事業

本館の月曜日・祝日開館について

図書館の本館は、これまで月曜日と祝日を休館日としていましたが、図書館利用の利便性を高めることから、4月からは、月曜日と祝日を開館します。

なお、1月と5月を除く毎月第1木曜日の整理休館日、秋の蔵書点検期間、年末年始（12月29日～1月4日）は、従来どおり休館します。



本館の外壁調査事業について

昨年6月に図書館本館の2階ベランダ外壁が一部落下したことから、ベランダの外壁については、全て落下防止工事を行いました。

今年度は、安心して図書館を利用していただけよう、本館の1階から7階までの外壁について安全性の調査を行います。

コンピュータシステムの統合について

新市発足時からの懸案事項であった、図書館コンピュータシステムの統合については、18年度から作業にかかり、すでに、大山図書館、婦中図書館、山田図書館、細入図書館が終了しました。

本年度は、八尾地区の図書館施設3館と大沢野図書館の統合作業を行います。

全ての館の統合作業が終了すると、約90万冊の蔵書を市内のどの図書館施設からも検索し、利用することができます。

また、これまで各館ごとに発行していた、貸出のための図書利用カードは一枚に統一され、より便利になります。



自動車文庫車両の更新について

図書館サービス網の最先端で活躍している自動車文庫は、現在、3台の車両で163ヶ所の駐車地を巡回しています。

3台のうち1号車は、一昨年に更新しましたが、今年度は2号車の更新を行います。更新する2号車の特徴は、環境に配慮した低公害車で高齢者や車椅子でも利用できる乗車リフトを備えていることです。また、駐車地における安全対策を考慮し、バック・アイ・カメラも装備しました。



障害者サービス資料のデジタル化について

音訳カセットテープ（録音図書）をCD-Rへ移し変え、また、新たに音訳するものはCD-Rに録音するようにします。

詳しくは、4Pをご覧ください。

分館窓口の業務委託について

分館は市内に17館あり、地域住民の身近な学習施設として、大きな役割を果たしています。

今日、行政運営の一層の効率の運用が求められていることから、一部分館の業務委託を行うことで、図書館サービスの効率化と質の維持向上を図ります。



細入図書館

本館とコンピュータシステムが統合されました。



国道41号線沿い、岐阜県との県境の細入地域は、人口1,700人あまり、県定公園「神通峡」のある、山紫水明の地に位置しています。

細入総合行政センターの隣、細入公民館の中にある細入図書館は、平成19年2月26日に、地域館としては4番目に本館とコンピュータシステムが統合されました。

今までとは貸出方式が変わり、本館・分館などと同じくコンピュータシステムによる貸出になりました。

どこの館でも本を借りることができ、返却できるのが魅力です。

また、なかなか図書館へ足を運ぶことができない人も、自宅でインターネットを使って読みたい本を検索し、予約ができるようになりました。

細入図書館は小さく、所蔵数も少ないのですが、他館から借用できることで、利用者のニーズに充分答えることができるようになり、利用者の方々に喜ばれています。

また、細入図書館にしか所蔵していない本もあり、システム統合当初から他館からの予約にも対応しています。

たとえば、細入地域の本田さんから寄贈された本田文庫もあり、その中には現在絶版になった岩波文庫などが数多く揃っています。

これからも、地域の方たちに図書館のことを知っていただき、利用していただくために、日々業務に励んでいきたいと思っております。

(細入図書館 生須)



障害者サービス資料のデジタル化について

富山市立図書館では、これまで、活字による読書が困難な視覚障害者の方々にむけて、図書を読み上げて音声化し、カセットテープに吹き込んだ、「録音図書」を貸出するサービスを、行なってきました。

カセットテープは、一般に広く普及したメディアで、再生機器も扱いやすく、点字のように表記法を覚える必要もないため、視覚障害者の方々に最適な読書手段として、親しまれてきたものです。特に中途失明された方々からは、「もう本は読めないと思っていたが、録音図書のおかげで、読書を続けることができ、本当にうれしい」といった、喜びの声を、多くいただてきました。

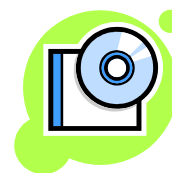
しかし、カセットテープには、年月を経ることによって音質が劣化してしまう、という弱点や、収録時間の関係で、長い作品はテープ10巻以上に及んでしまう、といった問題点もありました。さらに、デジタルメディアの急速な普及により、カセットテープ自体や、ラジカセのような再生機器の生産が減少しつつある、という状況もあり、デジタル時代に対応した、新しい録音図書の形式が望まれてきました。



そこで登場してきたのが、アナログ方式のカセットテープに代わる、デジタル方式の録音図書「DAISY（デイジー）」です。

「DAISY」とは、「Digital Accessible Information System」の略で、「デジタル音声データの種類」といえます。つまり、ワープロソフトにおける「文書データ」や、デジカメにおける「画像データ」と同じ概念です。このデータをパソコンに取り込んで再生したり、光学ディスクに記録してプレイヤーで再生するわけです。現在「DAISY」は、CD-Rに記録したものを再生する方式がほとんどで、外見的には、市販されている「音楽CD」に類似していますが、記録されている形式が異なるため、一般に流通しているCDプレイヤーでは、「DAISY」を聴くことはで

きません。「DAISY」の再生には、専用プレイヤーもしくは、専用ソフトを搭載したパソコンが必要になります。



さて、「DAISY」には、次のような特色があります。

音質が劣化しない

- ・ デジタルデータですので、テープが伸びて音が悪くなる、といったことはありません。
- ・ 貴重な録音図書データを、製作時の状態のまま、半永久的に保存できます。

1枚に長時間収録ができる

- ・ 1枚のCD-Rには、平均して約20時間分の音声データが収録できます。テープでは10巻以上の作品でも、CD-R1枚に収まります。
- ・ 利用者の方々は、これまでのように、1巻ごとにテープを入れ替える必要がなくなります。

好きな箇所の頭出しができる

- ・ 「DAISY」のデータは、階層構造になっており、章や節、ページの変わり目などに「区切り」がしてあります。この「区切り」を指定することによって、頭出しが容易にできます。
- ・ これまでのテープの「早送り」や「巻き戻し」で探す方法に比べ、はるかに短時間で好きな箇所に飛ぶことができます。

このように、「DAISY」は、これまでのカセットテープ録音図書の問題点を解消した、デジタル時代にふさわしい録音図書の新形式といえます。

富山市立図書館では、新たに平成19年4月から、この「DAISY」録音図書の製作に、取り組むことになりました。今後、著作権法の規定にのっとり、著作

権者了承が得られた作品について、順次「DAISY」の製作を進めていきます。

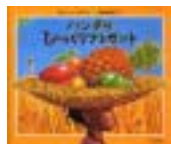
視覚に障害を持つ方々にとって、録音図書は、たいへん重要な情報源のひとつです。これまでのカセットテープに加え、「DAISY」を導入することによって、いっそう充実したサービスを提供していきたいと考えています。

(本館一般図書室 舟山)

第33回

読んでみよう子どもの本・展示会

昨年出版された子供の本から図書館がすすめる400冊



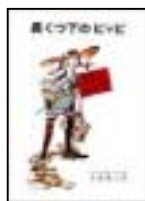
「さとうねずみのケーキ」「ハンダのびっくりプレゼント」「ウィズ・ブラウンの詩の絵本」

会期：平成19年4月21日(土)～5月6日(日)

時間：午前9時30分～午後5時

会場：富山市立図書館 本館 特別室(7階)

同時代を生きた二人の作品展 故リンドグレーンと 石井桃子100歳



「長くつ下のピッピ」
リンドグレーン/作
岩波書店



「いっすんぼうし」
いしいももこ/文
あきのふく/絵
福音館書店

山田孝雄文庫資料展示

『山田孝雄文庫の貴重書』

日時：5月1日(火)～5月31日(木)

午前9時30分～午後5時

会場：富山市立図書館本館

山田孝雄文庫室(6階)



山田孝雄文庫の目録を発行しましたので、和装本の閲覧は5月1日(火)から開始します。

子どもの本の展示会

「第33回 読んでみよう子どもの本・展示会」

「同時代を生きた二人の作品展

故リンドグレーンと石井桃子100歳」

(同時開催します)

「読んでみよう子どもの本・展示会」は、昨年1年間に発行された児童図書の中から、図書館がすすめる本として400冊を選び、展示するものです。

また同時開催として、「故リンドグレーンと石井桃子の作品」を展示します。お二人は、ともに1907年生まれ。作家活動のほか編集者として児童文学の世界で、幅広く活躍されました。

この機会に、たくさんの楽しい本と出会っていただければと思います。



(本館青少年図書室 瀬口)

いちおしライブラリー 第13回 「音楽その魅力」

日に日に暖くなる春の日差しを身体で感じるこの季節、それだけで何だか嬉しい気分になります。こんな時には、ついお気に入りの歌なんか口ずさんだりすることがありませんか？

好きな音楽を聴いて、心地よい気分になったり、自分を元気づけたり、傷ついた心を慰めたり、集中力を高めたり、緊張感を和らげたりと、音楽は不思議な力、不思議な魅力を持っています。

今回、音楽を主題にした本や音楽家たちの本を <青春と音楽> <音楽家たちの本> <癒しの音楽> の3つのテーマに分け紹介したいと思います。



<青春と音楽>



『青春デンデケデケデケ』
芦原 すなお
河出書房新社 1991

1965年の春、主人公はラジオから流れたベンチャーズの「パイプライン」のデンデケデケデケという電気(エレクトリック)ギターの音に、しびれてしまいます。

入学した高校でバンドを組み、ギター購入のアルバイトや、山奥での合宿練習にと励みます。同級生との淡い恋などを経て、初舞台となる文化祭発表へと話は進んでいきます。

若者達の、ロック音楽への熱く純粋な想い、行動におもわず大笑いしてしまいますが、個性豊かな彼らの魅力に最後は胸が熱くなります。

四国の田舎の高校生5人が、ロックに共鳴し友情を育てていく姿が生き生きと描かれている青春音楽小説。

青春時代にベンチャーズを聴いた世代には懐かしい思い出がよみがえる一冊ではないかと思います。



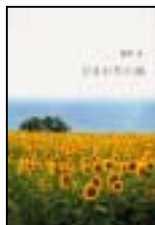
『息を聴け 熊本盲学校アンサンブルの挑戦』
富田 篤 新潮社 2006

1人の若き打楽器奏者が、指導者となり視覚障害を持った生徒8人と共に全日本アンサンブルコンテストに初挑戦し、1位になった実話です。

音程のない太鼓の複雑なリズムを音だけで伝えるテクニックは、並大抵の作業ではありません。友人の発するスティックの音、その際に生ずる気配、無意識に吸い込む息の音。本来、視覚で捉えるべきものを、彼らは耳で聴き音楽に結びつけていきます。音楽は聴くだけではなく、「息を聴く」ことを思い起こさせます。

生徒と指導者が、互いに切磋琢磨しながら成長していく姿が、読者に新鮮な感動を与える作品です。

<音楽家たちの本>



『ひまわりの海』 館野 泉
求竜堂 2004

前半は、敬愛するセヴラックがパリを捨て、生涯の大半を過ごした故郷、南フランスを著者が訪れた時の様子を書いています。また、世界各地のコンサートに出演する音楽家は、その地の風土を感じながら演奏する旅人でもあるとも。

後半は、脳溢血をおこしてステージ上で倒れ、ピアニストにとって致命的な右半身不随の後遺症を受けたことや世界的ピアニストだった著者が、再起への不満・孤独を抱きながらも矜持を失わず、左手のピアニストとして、再び活動を始める様子が綴られています。

誠実で繊細な音色、質実剛健なタッチの演奏で多くのクラシック音楽ファンを持つ著者が、2年間の闘病生活と心の葛藤を語っています。



『千住家にストラディバリウスが来た日』
千住 文子 新潮社 2005

「芸術家三兄妹」として知られている千住家のヴァイオリニスト真理子が、名器といわれる一丁のヴァイオリンに出会い、紆余曲折を経て手にするまでの物語です。

スイスの大富豪の遺品の中から、幻のヴァイオリン・ストラディバリウスが発見されたことを知る真理子。この名器を手にした者は、不思議な運命をたどるという伝説があり、手にした瞬間、深い愛情と運命を感じると言われています。

音楽家にとって楽器は単なる道具ではなく、それ以上のものということが伝わってきます。美しいヴァイオリンの音色に魅せられ奔走する兄妹達の心の軌跡と、その子供達を温かく見守り続けた母の手記です。



『小林研一郎とオーケストラに行く』
小林 研一郎 旬報社 2006

とかく堅苦しいイメージのあるクラシック音楽を世界的に活躍している指揮者（コバケン）がわかりやすく説明しています。手書きのコンサートホールの見取り図、マナー、ホールの1日の流れ、図説のオーケストラの楽器の配置図、裏方さんの苦労話、チケットの買い方、全国に23ある日本のオーケストラなどを紹介し、読みやすい構成となっています。

知っているようで、知らなかったオーケストラの秘密を専門家自身が丁寧に解説しています。

クラシック音楽の新しい楽しみ方が発見でき、オーケストラを身近に感じることができる1冊です。

今度、オーケストラが来たら行ってみたいくなる楽しい本です。



『こころを癒す音楽』
北山 修 講談社 2005

人間は心が傷つき痛みを抱きながら暮らしています。この傷が癒えるプロセスを「ヒーリング」と呼びます。

ここに登場する35人は、普段は患者たちの話を聞く仕事の精神科・臨床心理の専門家たち。その彼らが「ヒーリング（癒し）」にまつわる自分自身の思い出の1曲を選んで語っています。35話ひとつひとつに、出会いとメッセージがあり、どれもが心に深く響き余韻が残る話です。

この本をまとめた著者は、精神分析医でミュージシャンでもあり、音楽の不思議な力が心と身体の緊張を和らげる効果があることを説いています。



『子供の歌を語る 唱歌と童謡』
山住 正己 岩波書店 1994

最近、童謡・唱歌を歌う催し物や活動が改めて見直されています。本書は、唱歌と童謡の成り立ちの違いを歴史をおって述べています。

明治になり、近代学校教育が整備されますが、音楽教育の方針は暗中模索状態。その先駆者となったのが「唱歌の教育の父」伊沢修三。アメリカ留学で学んだ「俗謡を教えるのではなく、子ども向きの歌を用意し教育するべき」との考えで唱歌の指導、普及にあたったことがわかります。

それに対して、大正デモクラシーの波と、雑誌「赤い鳥」の創刊により童謡運動が起こります。北原白秋を中心に「唱歌は、わらべ唄を排除し、風土習慣の違う欧州音楽を取り入れ、子供の生活感情を理解していない」と批判。官主体の唱歌に対して、文学者たちの童謡が広がる様子がわかります。明治以降の唱歌・童謡が戦争に翻弄された経緯や、言文一致などさまざまな視点からも日本の子供の歌を知ることができる1冊です。
(大沢野図書館 小川)

レファレンスあれこれ



普段何気なく見聞きしているものでも、ふと考えると知っているようで知らない事柄に出くわすことがありますか。今回はそんな質問を紹介します。

Q. 毎年正月に『天神さん』の掛け軸を飾るが、菅原道真公が牛に乗っている絵が描かれているのはなぜか。武将なら馬に乗っているのが一般的だと思うのだが…。



A. 菅原道真が「天神さん」であり、またその「天神さん」が学問の神様であることはよく知られている。入試シーズン、天神様に合格祈願に出かけられた方々もあると思う。だが、牛との関係となると知らないことが多いのではないだろうか。

まず、郷土資料を中心に調査してみることにした。『学芸の神・菅原道真 - 天神信仰と富山 - 』（北日本新聞社 1987）は、富山の人々に親しまれている天神信仰の歴史をまとめた一冊である。12 項に、「天神と牛」と題し、「著名な天満宮の境内には、青銅・石造の臥牛があり、拝殿には牛に乗った道真が梅花をかざしている絵馬がかかげられている。」と記されており、牛との深い関係がうかがえる。

『北陸の天神様かざり』（西村忠 2004）では、「牛乗天神」の項で紹介されており、天神信仰の変化や、北陸地方の天神かざりについて、詳細に書かれている。

他に、富山の天神信仰について詳しく書かれている資料として、『天神考 - 風習としての天神祭 - 』（飛見立郎 2004）、『万華鏡 富山写真語 17 天神様』（ふるさと開発研究所 1993）などがある。

また、『天神さん人形』（日貿出版社 2000）では、全国の天神人形をカラー図版で紹介している。その中の 1 項で「天神さんと牛」と題し、4 頁ほどにわたり、牛との関わりが詳細に記されている。

Q. 「お」を「大きいお」、「を」を「小さいを」と呼ぶのは、富山県固有の習慣だと北日本新聞で紹介されていた。全国的または一般的にはどんな呼称を使うのか。

A. 『日本国語大辞典』（講談社 2001）、『広辞苑』（岩波書店 1991）、『大辞泉』（小学館 1995）などの国語関係辞書には、用法・用例は記載されているが、呼称の違いなどの説明はない。方言関係図書『とやまのまちのことは』（廣文堂 1983）、『おらっちゃらっちゃの富山弁』（北日本新聞社 1992）、『日本のまんが富山弁』（北日本新聞社 2001）なども調査したが呼称に関する記載はない。

手がかりを得るためにインターネット検索を試みると富山県固有であるとの情報が多い。その中に参考文献として『都道府県別 気持ちのわかる名方言 141』（講談社 新書 2005）が紹介されており、県立図書館に所蔵していたので借用した。《小さい「お」=助詞の「を」、その呼称には各地にバラエティーがあり、「腰曲がりのお」「かぎのお」「重たいお」など。ちいさい「お」と表現する地域はほぼ富山県に限られる。》と書かれており 2 頁ほどの解説があった。

現在の小中学校ではどのように教えられているのか教職員や児童に尋ねてみたが、質問の呼称はあまり使っていないようである。

「あ行のお」「わ行のを」「おとうさんのお」「くつつきのを」「接続のを」などと表現されているらしい。



（四方分館 早瀬）



平成 19 年 4 月 20 日富山市立図書館 編集・発行 富山市丸の内 1 丁目 4-50 TEL076-432-7272
HP アドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp> E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp